

将来の青梅市のために実現に向け検討していく取り組み事業アイデア（とんがり事業案）

資料3

基本目標

- 1.子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現
- 2.青梅に暮らし、働き、訪れる人々にとって魅力あふれるまちを創出
- 3.将来を見据えた、安全・安心なまちづくりを推進

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
1	乳幼児健診・相談事業へのタブレット端末導入	タブレット端末をスタッフが1人1台持ち、その場で記録・他のスタッフと共有。保健指導時には、動画や画像を表示して母や子に説明する。	1	子育て
2	第3子以降が育てやすい街青梅	第3子以降の手当てを極端に増額する。例えば18歳まで育てたら計1,000万円の手当てを支給する。	1	子育て
3	育児パッケージの内容を充実(10万円相当)したセットを配付	これから出産前に母子保健コーディネーター(保健師)が直接面談を行ったの妊婦の方に、出産準備に向けたプレゼントとして出産・育児に必要な準備品(10万円相当)を送る。	1	子育て
4	青梅っこ子育て応援事業	・保育料の価格の値下げ(例:二人目無料等) ・子育て消耗品の配布や助成(例えば月5000円分とか) ・ベビーベッドやチャイルドシートなどの安価でのレンタル ・子育て家庭に認定カードを配布し、加盟店で割引を受けられるサービスの提供	1	子育て
5	保育園バスの運行	西部地区への保育園バスの運行。	1	子育て
6	保育事業の充実	24時間保育および夜間就労する父母のために送迎付きの保育事業を充実する。	1	子育て
7	グローバル人材の育成 Omeで英語が身に付く教育プロジェクト	市の保育園や認定こども園で幼児向けの英語教育を始める。 小学校の算数の授業を英語で実施する。 小中学校で英語版サタデースクールを実施する。	1	子育て
8	惜しみなく若者と子育て世代を応援する街「青梅」	保育所が待機になったら入れるまで1か月5万円(仮)を支給する。 市内に巨大滑り台を設置する。(例:市役所屋上から芝生の上に降りる。) 青梅は若者の失敗を「大目」に見ます。何度でも再チャレンジ可能 青梅の食事はサービスも量も「多め」です(飲食店と提携)→満腹の街青梅・青梅産食品で栄養満点も目指します などの事業により子育て世代と若者を応援する。	1・2	子育て
9	学園都市おうめ事業	立川市で働く人たちの住まいを青梅市に定着させることを狙いとする事業。 働く世代で子どもがいる家庭では、住まいとして、①災害にも防犯にも安全、②子育てしやすい環境、③教育を考える傾向がある。③を推進するため、フィンランド教育を模範し、最先端の教育都市をめざし、市立の小中高大学教育が学べる学園を建設する。	1	子育て

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
10	青梅市立総合病院「子ども医療センター」事業	青梅市立総合病院内に、産婦人科、小児科、周産期医療、NICU、助産師外来などの部署が連携する「子ども医療センター」を設置する。	1	子育て
11	子ども医療費無償化事業	中学生までの子どもの医療費を無償化する	1	子育て
12	児童ショートステイ事業	青梅市では乳児しか行っていないショートステイ事業を中学生まで拡大する。	1	子育て
13	子育て世帯の優良住宅取得助成	子育て世帯の長期優良住宅取得に際し、市が助成金を交付することにより、併せて住宅金融支援機構のフラット35の融資金利引き下げも行うもの。	2	子育て
14	子育て応援企業認定制度	子育てする従業員に対し、子育てしやすい待遇などを実施している企業に対し、市が「子育て応援企業」の認定を行う。	1・2	子育て
15	起業支援の一步先へ	起業者の結婚、子育てまでをパッケージングして事業化。起業後の人生設計において支援を行う。	2	移住・定住
16	まるごと移住	子育て世代のみをターゲットにするのではなく、祖父母も含めてまるごと移住を提案。	2	移住・定住
17	目指せ！働き盛り世代選ばれるまちプロジェクト！	働き盛り世代の需要を分析し、「手助け家電リース(乾燥機付き洗濯機、食器洗浄機、ロボット掃除機などから一種類貸与。市外への退去時お等に返却)」や、不動産業界と協力し、新婚家庭向けの部屋の斡旋など(最大6年程度まで)を行う。	1・2	移住・定住
18	ゆめうめ奨学金事業	大学生を、対象とする給付型の奨学金制度を実施する。所得と学業への熱意などの人物調査のみを基準とする。	1	移住・定住
19	多世代が安心して暮らせるまちづくり	既存の医療施設や福祉施設を対象にモデル的な街づくりとして、周辺の同時開発などを行うことで新しい街づくりを提案し、市の取組としてPRする。	2・3	移住・定住
20	特定健康診査の継続的受診支援	特定健康診査を10年連続して受診した方に、表彰を行い健康グッズをプレゼントする。さらに、その10年の間に保健指導を受けるなどして、健康状態に改善が見られた方には、翌年の人間ドック等の健診を全額補助、又は健康グッズをプレゼントする。	2	移住・定住
21	東京から中央線1本クールでホットな田舎・おうめで子育てを、事業	青梅の子育てのしやすさをアピールし、クリエイティブな30代子育てファミリーが青梅に移住や交流のために訪れるような環境整備を行う。また、きっかけ作りとして、青梅、奥多摩エリアの様々な観光、体験コンテンツを利用する。	1・2	移住・定住
22	市街化調整区域の居住者と市街化区域内の空家所有者のマッチング事業	インフラ等の財政投資が効率化できるよう、市街化調整区域内の居住者を市街化区域内に移住を進めるため、市街化区域内の空家所有者とのマッチングを行う。	2・3	移住・定住

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
23	居住継続者へプレゼント	5年、10年、15年と長く住んでいる住民へプレゼント。内容はいくつか選べる。 プレゼントの例：青梅の野菜、青梅の米、青梅のお酒、梅ノ木オーナー、温泉券、人間ドック権、など。	2	移住・定住
24	三世代近居等の子育て世帯向け家賃助成	三世代で近居・同居しようとしている方に家賃補助などの支援をするとともに子育て世帯の呼び込みを行う。	2	移住・定住
25	農地付空家活用事業	農地と空家をセットにして、移住希望者や週末利用希望者に貸出を行う事業。 空家対策のモデル事業として、市が空家と農地の所有者から借り受け、希望者に安価で貸出を行う。	2	移住・定住
26	自然を活かして元気な街青梅を創る事業	自然林を活かした大規模アウトドア施設や、河川の渓谷によるバンジーやラフティング、またキャンプなどのアウトドア施設を作る。 他自治体と差別化するため、単なるアウトドア施設ではなく、防災の拠点としても活用できるような施設を目指す。	2	観光・レジャー ・スポーツ
27	多摩川ジップライン	御岳渓谷、美術館と郷土博物館、美術館と釜の淵プールとの間にジップラインを建設し、新たなアドベンチャーとしてPRしていく。	2	観光・レジャー ・スポーツ
28	青梅市まるごとレジャーランド化事業	青梅市にしかない豊かな山、川を活用したレジャー環境・施設を整え、青梅市自体をレジャーランド化にしてしまう。青梅線(アドベンチャーライン)、御岳登山鉄道その他、ラフティング、ジップラインも移動手段とすることで、観光拠点間が離れていることも克服できる。	2	観光・レジャー ・スポーツ
29	かすみ丘陵ハイキングコース整備事業	霞丘陵ハイキングコースをゴムチップ舗装として歩きやすくする。 また、コース沿いに連続して桜を植樹し新たな桜の名所としてPRする。	2	観光・レジャー ・スポーツ
30	アドベンチャーラインと連携した「一駅一事業」の展開	JR東日本が展開するアドベンチャーラインに合わせ、青梅駅から御嶽駅までの各駅に特徴ある事業を展開する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
31	駅ビル・ホテルの建設	青梅マラソンや各種観光で青梅市を訪れる人は多いが、宿泊施設がないため、青梅市にお金が落ちることなくお客は帰ってしまうので、駅ビルを建設し、宿泊施設や宴会や講演が出来る施設を付帯する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
32	Airbnb事業	Airbnbを市で推進していく。外国人に日本の体験ができるように整備する。また空き家を市がAirbnb施設として運用。	2	観光・レジャー ・スポーツ
33	「星野リゾート青梅」誘致事業	人気の宿と非日常的な体験のできる事業展開で、観光客を集める「星野リゾート」を誘致し、青梅の豊かな自然環境と「星野リゾート」のコンセプトを融合させ、青梅ならではの、都心から近い魅力あるリゾート地の構築を進める。	2	観光・レジャー ・スポーツ
34	「WE LOVE OME」交流人口増加策の展開	定住人口の増加策へ注目する一方で、観光客、短期滞在客、イベント参加者、買い物客等多くの人が青梅を訪れていることに着目し、これらの人々が何を目的に青梅の「交流人口」となっているのか分析するとともに、さらに増加させることを総合戦略の指標の一つとする。	2	観光・レジャー ・スポーツ

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
35	昭和レトロの一極化	昭和レトロを残すのであれば、今のように住江町～裏宿町までのように広い範囲ではなく、青梅駅～青梅街道までの直線のみにするなど、やるなら徹底的に狭い範囲で行うことで、観光客も来やすくなる。	2	観光・レジャー ・スポーツ
36	OMEWAYS(オームウェイズ) 3丁目の夕日昭和レトロ事業	時代は令和となり、昭和を売り込むチャンス。江戸時代の犬内宿、大正ロマンの銀山温泉といったように青梅駅周辺を昭和30年代の街並みに特化させる。	2	観光・レジャー ・スポーツ
37	まちの玄関口整備事業	「旧青梅街道」および「駅前ロータリー」を景観形成地区に相應しい道へと整備する。 「旧青梅街道」については、一方通行にさせることで歩道を拡幅させ、無電柱化を進めるとともに、「賑わいの空間」を創り出す。 「青梅駅前ロータリー」については、イベントとしても利用できる空間を築造し、観光地「青梅」をPRする。	2	観光・レジャー ・スポーツ
38	道の駅の設置	道の駅を設置し、青梅市の観光を知ってもらう事により、青梅市が目的地となり、集客効果が期待できる。	2	観光・レジャー ・スポーツ
39	トイレきれいピカ事業	短期間に集中的にトイレの改造を行い、「青梅はトイレのきれいな街」を目指し、PR展開する。 JR、公園、スーパーなど、青梅市に設置するトイレは「きれいピカ！」として設置する。民間事業者にも、同様に求める。	2	観光・レジャー ・スポーツ
40	山歩きの拠点作り 自家用車の代行輸送	市内主要登山口数か所に小規模の道の駅のような登山拠点を作る。 (上成木、長淵5丁目、梅ヶ谷峠入口等) ⇒自家用車を別の登山拠点まで代行移送(移動)し、片道ハイキングを楽しめるようにする。	2	観光・レジャー ・スポーツ
41	よさこいソーラン祭り in OME	会場は青梅駅・河辺駅・東青梅前ロータリー、市役所・総合体育館前広場・ネッツたまぐーセンター、梅の公園、健康センター前道路等、メイン会場以外はちょっとした広場があればできる。会期は2～3日。コンクール形式にして、各賞を設定しても励みになる。スポンサー、実行委員、ボランティアを募って、市内全域で盛り上げる。	2	観光・レジャー ・スポーツ
42	花木園リニューアル	老朽化が進むローラーすべり台や、木製遊具、生い茂った樹木等の改修、整理を行うとともに、わかぐさ公園に設置したポップジェット噴水のような設置についても充実させるなど、施設全体を大幅にリニューアルする。	2	観光・レジャー ・スポーツ
43	官民連携による都市計画公園・緑地の活用	青梅市内の都市計画公園・緑地を指定管理とし、公園内の施設の充実を図る。 (例1)釜の淵緑地を指定管理とし、バーベキュー施設や親水施設の整備、プール跡地をレストラン等として活用する。 (例2)わかぐさ公園を指定管理とし、カフェの整備等、施設の充実を図る。	2	観光・レジャー ・スポーツ
44	ドローンパーク	ドローンの練習場を青梅に設置。練習用にドローンもいくつか貸し出す。入場料や貸出料は無料。	2	観光・レジャー ・スポーツ

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
45	梅の公園復興事業	梅の公園を「再生」ではなく、「復興」を遂げる効果を目指す。平成28年度に実施した梅の公園再生地区測量委託の成果(デジタルデータ)を活用し、目に見える形で情報を発信し、吉野梅郷全体の活性化を図る。	2	観光・レジャー ・スポーツ
46	(仮称)ポートレースチケットショップOME CITY HALL	全国初の市役所庁舎内に場外舟券場を設置する。現在、庁舎1階郵便局側に、自動発売・払戻機1台を設置して、舟券を発売する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
47	オラレ青梅の設置	青梅駅周辺の空き店舗を活用して、コミュニティスペースとポートレースチケットショップを併設したオラレを設置する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
48	芸術の天空都市御岳	若い芸術家や大学生を募り、御岳山の建物をカラフルにペイントしていく。またペイントや建物修復費を助成。御岳山の建物に統一感をもたせ芸術と自然が融合した新たな観光の目玉を創出する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
49	御岳山をユネスコが登録する「世界文化遺産」を目指す事業	古くから山岳信仰の山と知られ、何百年という歴史のある宿坊が建ち並ぶ御岳山をユネスコが登録する「世界文化遺産」に指定される活動を行う。	2	観光・レジャー ・スポーツ
50	御岳山商店街のファサード整備事業	御岳山商店街の店舗の前面を古民家風に統一することで、街並みを整える。	2	観光・レジャー ・スポーツ
51	御岳山世界遺産化事業	御岳山の世界遺産登録を目指し、このことをPRしていく。	2	観光・レジャー ・スポーツ
52	吉川英治記念館を新たな核とした西部観光拠点の創出	吉川英治記念館の活用を西部観光の一つのエンジンにとらえ、飲食の提供や季節ごとのイベントの実施など、今までになかった運営を行い、近隣観光拠点と相乗的な効果を狙った事業を展開する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
53	勝沼城、辛垣城、藤橋城の整備事業	勝沼城、辛垣城、藤橋城を当時の姿を再現する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
54	歴史・文化遺産の活用推進～御岳山の日本遺産認定～	歴史・文化遺産を観光などの産業と結び付けることで、地域資源としての活用を推進し、さらに、地域の魅力を発信するため、御岳山の日本遺産認定に向けた準備を進める。 〈日本遺産:文化庁が地域の歴史的な魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定する。現在、全国で83件が認定。都内は0件〉。	2	観光・レジャー ・スポーツ
55	文化財の活用による地域活性化の推進	東京都の有形文化財として指定されている2住宅は、近年、屋根の葺き替え修理を終えており、屋内の特別公開をはじめ、カフェの営業や他の地域資源との連携など文化財の活用を推進する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
56	祭礼行事の魅力発信	市内の祭礼行事を継承していくため、山車の保存修理を行ったり、年間を通して、多くの人達に知っていただくため、お祭りのガイドマップを作成し、魅力発信に取り組む。	2	観光・レジャー ・スポーツ
57	大人のアドベンチャー探索	お酒つき(無くても構わない)で、市内の名所・秘所・名物料理・普通の料理等、味わいながら、または訪れながらウンチクを語り合う。 それらを動画配信やツイート等ネットにアップし、交流の輪を広げ、グローバルな社会を目指す。	2	観光・レジャー ・スポーツ

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
58	青梅マラソンを核としたスポーツツーリズム事業の推進	ランニングステーションの設置などのランニング環境の整備や各スポーツのコース開発と飲食店との連携などをまとめ、これらを国内外に発信することでスポーツツーリズムを推進する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
59	スポーツ・ゼミ合宿のまち青梅	青少年等の合宿に対応できる環境を整備し、青梅市を合宿のまちとして売り込む。 グラウンド、体育館、ゼミ用の教室は、廃校を含む学校、市民センターなど既存施設を活用することとする。 宿泊施設は、市内宿泊施設のほか、廃校、空き家などを活用した民泊などとする。	2	観光・レジャー ・スポーツ
60	サッカーコートの天然芝化	河辺下グラウンドサッカーコート天然の芝生にする。	2	観光・レジャー ・スポーツ
61	多目的陸上競技場の設置	黒沢1丁目から2丁目にかけての採石場跡地に、800メートルトラックや人工芝のサッカーコートを整備した陸上競技場を設置し、市内外のスポーツ振興に努める。	2	観光・レジャー ・スポーツ
62	観光振興および地域活性化に向けたサイクリング事業	豊かな自然環境や史跡等と伝統・文化を活かした観光振興と合わせ、コースの途中に空き家を利用した食事処を設けるなど、空き家対策や賑わいの創出、若者の活躍の場づくりを含めた地域活性化、さらに健康志向、環境負荷の優しい事業として、サイクリングコースを設定、整備する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
63	サイクリングコースの整備	休日等にサイクリング車で走る人が増えている中、一般公道の整備が進まず、交通事故が増加する恐れがあるため、自転車専用道路を整備し、交通事故の増加を防止する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
64	「アウトドアスポーツの青梅市」～マラソン・サイクリングコースの整備、レンタルバイク・レンタルセグウェイ事業～	青梅マラソンのコースに自然を満喫できるマラソンコースとサイクリングコースを整備する。そして市役所の敷地内にバイクやセグウェイのレンタル施設を整備し手軽にアウトドアスポーツを楽しめる環境を整備する	2	観光・レジャー ・スポーツ
65	サイクリングロードの延伸	サイクリングロードを羽村から御岳まで延伸することにより、上流から下流までつながり、御岳の環境豊かな多摩川を走るコースは愛好家たちに親しまれるコースになる。途中々々に休憩場所として茶店を設置し、青梅物産の販売も一考である。	2	観光・レジャー ・スポーツ
66	自転車とまちづくり空間整備事業	法定の自転車通行空間の新設にこだわらない手法により段階的な発想で計画・実施する。 「利用者の安全」「観光(目的の地域に誘導する)」等、住民や来街者のニーズを捉え、自転車走行指導帯、観光地までの誘導案内サイン(カラーライン)を路面表示する。	2	観光・レジャー ・スポーツ
67	青梅の高校生×市内事業者マッチング事業	市内の事業者と高校の教育現場をつなぎ、高校生自身が自分のキャリアを考えながら市内の産業や市内の魅力を知ることができる機会を構築する。	2	産業・雇用

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
68	【テレワークオフィス整備事業】 本市の地理的優位性を生かし、在宅勤務の適地としてのPR事業を推進する。	市内の遊休施設や空き家をテレワークオフィスとして再整備し、企業進出や雇用創出を促進する。 市が率先してテレワークに取り組み、在宅勤務の適地としてPRする。	2	産業・雇用
69	空きアパート等を利用したインキュベーションオフィスとIt企業オフィス事業	空きアパート等を市で借りオフィスとして改装、インキュベーションマネージャーによるコンサルティングとあわせて、創業を支援する。(インキュベーションオフィス事業) この他に、It企業を誘致する。(It企業オフィス事業)	2	産業・雇用
70	10年法人税減額計画	法人税を期間限定で減額し企業の誘致を促進する。たとえば、東青梅センタービルの店舗は10年間法人税0円など。	2	産業・雇用
71	市内全店舗キャッシュレス化による、買い物環境改善	市内どこでもキャッシュレスで買い物可能な環境を整備する。 必要な機器の購入あっせんや、導入に向けて、市内店舗への営業を行う。	2	産業・雇用
72	コンビニエンスストアとの包括連携協定～スマホ決済を利用した市税、保険料、保育料の納付～	コンビニエンスストアとの包括連携協定を締結し、その目玉の一つとして、コンビニエンスストアのスマホ決済を利用して、各種税金・料金の納付書の支払いをいつでもできるようにする。 さらに、市主催のイベントの出店の支払いなどにもスマホ決済を導入する。	2・3	産業・雇用
73	農山漁複合体験事業	国(内閣府・総務省・文部科学省・農林水産省・環境省)では子ども自然体験活動を推進するために農山漁村体験を推進している。本市ではすでに市民団体による農業体験、林業体験を実施しており、漁協も設立されていることから、多摩川での体験も含めて複合的な体験を実施する。	2	産業・雇用
74	森林環境贈与税を利用した取り組み推進	森林環境贈与税に関する取り組みに悩む東京区部の自治体や企業をターゲットとし、自治体や事業者の取組場所の提供を中心に考える。 利用する自治体や事業者から年間登録料等の支払いを受ける。 利用団体の活動が、森林の管理につながる。	2	産業・雇用
75	ロボットを活用した森林整備事業	本市の山間部は、所有者や境界が正しく把握されていない所も多い。 林業施策として、これらの情報を集約し、施業放置林一帯を計画的に広域整備し、育てた木材等の統一規格(ブランド)化に取り組む。 人材育成として、作業等を機械(ロボット)化し、業務に携わる法人等の育成とともに環境整備と労働力の省力化・多国籍化にも取り組む。	2	産業・雇用
76	里山活用スクラム	林業者、農業者、ボランティア等の広域的な連携による里山の再生と利活用スクラムを組み、循環型サイクルの復活を目指す。 従来の森林整備との違いは、山主の了解があれば、即作業に入れることと、普段の手入れ以外に将来的な樹木の活用に結び付けることで、森林整備とは違う管理をする。	2	産業・雇用

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
77	ウッドチップの利用事業	成木・小曾木の木を利用。猫や犬などのグッズに利用。猫の町のPRにもなる。	3	産業・雇用
78	ベンチャー企業村の創設	起業しようとする者に青梅市で起業してもらおうよう、当該空き家を活用してもらい、ここを拠点として業種ごとにさまざまな情報発信を行うほか、市ホームページ等を活用してベンチャー企業の紹介等を行い、継続的に起業家にとって参入しやすい環境を整備する。	2	産業・雇用
79	大型店舗の建設	青梅・東青梅・河辺駅周辺に大型店舗を建設し、駅利用者が帰宅時に買い物ができる環境を充実する。	2	産業・雇用
80	猟師誘致・ジビエ活用事業	若年の猟師を空き家等に誘致し害獣駆除を行ってもらおう。害獣(シカやイノシシ等)については屠殺し屠殺したシカやイノシシの肉をふるさと納税の返礼品として利用する。または、返礼品として利用できない部分については、ジビエ料理として提供できるよう、地元料理店へ安価で販売する。	2	産業・雇用
81	マルシェの拡充	マルシェに「青空市」を取り込み、総合的なマーケットを開催。現在は商店の出店が多いが、青空市を同時に開催することにより、更なる集客、活性化が期待できる。	2	産業・雇用
82	太陽光発電の売買支援	令和元年度11月で、東京電力等による太陽光発電の買取金額が激減する。太陽光発電設備を持つ世帯から、持たない世帯へ電気を売れるよう、市が設備等の仲介をして、電力会社より高く売り、電力会社より安く買える仕組みを作る。	3	産業・雇用
83	若者が来たくなる街・高齢者が住みやすい街青梅を創る事業	電車を複線化し、多方面への乗り換えを便利にし、あわせて大型ショッピングモールを誘致し、交流人口の増加により街を活性化する。また、ショッピングモール内に高齢者と子供が一緒に過ごせる場所を作り、読み聞かせや遊びを一緒に行う。また、その担い手として市民に積極的な関わりも持って貰い、持続可能な商業機能と交流機能の維持継続を形成するとともに、市民と来街者の交流による直接的な市民による青梅PRが住みやすい街青梅の宣伝ともなる。	2	産業・雇用
84	障がい者に優しい市	人手の足りない農家と障がい者を繋げる。まず余っている土地を農園として利用し農園を市が運営。そこを障がい者の雇用の練習場として活用。スキルや実績を積んだ障がい者を民間の農園に派遣する。	2・3	産業・雇用
85	介護施設に関わる人の育児に関する優遇	介護施設に近いところに保育園を設置する。または、介護施設と住宅地との間に保育園を挟むようなコミュニティバス経路を設ける	1・2	産業・雇用
86	市営住宅あき室と敷地のスペースを事業者用へ改修し複合施設とする	利便性が低く、入居希望が極端に少ない住宅を複数部屋、改修を行い、事業者用に使用してもらおうようにする。日用品を扱う業者の臨時店舗や医療機関の訪問医療や福祉サービスに活用してもらい、地域住民も利用できることとする。日用品や医療は常時必要だが、一時利用も可能なエリアを作り、高齢者や子育て世代等ニーズに合わせて使用してもらおう。近辺の川や森など自然とのふれあひも合わせて活用する。	2	産業・雇用

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
87	空き家活用定住支援事業	過疎化により空き家となった住宅を空き家バンクに登録し、登録された空き家に定住してくれる方(特に若年層)を募集する。空き家は無償または安価で賃貸もしくは売却し、修繕費用については上限を定めたうえで補助金として支給する。	2	空き家
88	空家対策	当時、学生利用を見込んだアパートの利用率が下がり、空き部屋が多く見られ、家賃を下げる物件が多くなっている。このため、都内等から転居し、保護率が増加傾向となるため、家賃補助による就労子育て世帯の転入推進(53,000円程度)の家賃までの住宅を借りる際に、一定期間(1、2年)家賃の1/3を補助することにより、空家を減らす。	2	空き家
89	空き室対策のためのアパート経営支援事業	アパート苦情で多い騒音対策やセキュリティを上げることで、物件の空き室率を上げる。また、他区市の生保受給者が、一定の地域に偏ることなく居住することにもつながる。そのため、必要な改修を補助する。	2	空き家
90	移動販売車の導入	スーパーやコンビニ、生協など移動販売車を行っている事業者へ業務委託し、免許を返納した方や交通弱者などがある山間部など市街地から遠方の箇所を中心に移動販売車で物販を行う。市でも移動販売車を導入し、出張所、市民センターに行けない方に対し、住民票の取得や介護保険等の手続きができるようにする。	3	安全・安心
91	太陽光発電の普及補助	大型店舗の駐車場に屋根をつけ、太陽光発電設備の設置を支援する。作った電力は店舗で使用する。千葉県内では、駐車場に発電設備を持つ大型店舗が見られる。屋根を付けることで駐車中の車内の温度を低く抑えたり、電力を利用してミストを噴霧することもできる。	3	安全・安心
92	アライグマ0(ゼロ)宣言	特に被害の影響が大きい種であり、規制基準のあるアライグマについては駆除を実施し、被害ゼロをめざす。また、同時に外来種に対する正しい知識を身につけ、市民が冷静に対処できるよう事業を進めていく。	3	安全・安心
93	次世代自動車導入計画	地球温暖化対策の一環として、燃料電池自動車の導入(既存のガソリン車の更新も含む)を推進する。燃料電池自動車は水素と酸素を反応させ電気をつくる「燃料電池」を搭載し、モーターで走る自動車である。走行中に排出されるのは、水のみでCO2の排出はない。また、燃料電池自動車は自動車自体で発電をするため、災害時の非常用電源としての使用も可能である。効率的な運用のため、水素ステーションの誘致も検討し、一体としての計画を推進する。	3	安全・安心
94	公営フードパントリー、公営食堂設置事業	公共施設再編に伴い廃止となった施設をリノベーションし、公営のフードパントリーを設置する。現在、実施しているフードドライブで集まった食料や、市内スーパー、農家等から賞味期限が近いため廃棄処分となった食料や規格外で廃棄処分となった食料を集め、生活困窮世帯や子ども食堂等へ無料または安価で提供を行う。併せて安価な食堂を運営することで、食品ロスを減少させる。	2	安全・安心

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
95	がん検診医療機器導入補助金	青梅市内医療機関に対し、市の5大がん検診実施に必要な検査機器等導入の際に全額補助することで、市内医療機関の診療性能向上を図る。	2	安全・安心
96	発達障害者支援センター	発達障害を大人から子どもまで医師や心理職もいるセンターで児童発達支援なども行えればよい。今は高校生の発達障害は教育相談所もサポートセンターも受けてもらえない体制で困っている	3	安全・安心
97	産学官によるドローン配送および自動運転技術、在宅医療等を活用したスマートシティモデルの構築に向けた実証実験	人口減少が著しい小曾木・成木地区において、産学官によりドローン配送や自動運転技術、在宅医療等の実証実験を行い、ICTをフル活用し、車を持たない高齢者が1人で暮らせるようなスマートシティモデルの構築を目指す。	3	安全・安心
98	迷子ゼロ作戦	GPS内臓の靴を無料配布して子供やお年寄りの迷子をゼロにする。	3	安全・安心
99	オレオレ詐欺ゼロ作戦	全世帯にオレオレ詐欺対策用電話を無料で設置。	3	安全・安心
100	AIを活用した青梅インターチェンジ周辺の渋滞緩和システム	元々交通量の多い青梅インターチェンジ付近に、物流センターが稼働し、周辺道路の混雑が予想される。区画整理に伴い、インターチェンジ周辺の信号の制御にAIを活用し、交通を円滑にすることで渋滞ゼロを目指す。	2	交通
101	モビリティイノベーションに向けた、就業エリアなどをターゲットとした無人自動車(レベル4)実証実験	無人自動車による交通課題解決の実証実験を行う。無人自動車は自動運転と交通制御システムとの連携により、適した経路選択ができるようにするほか、運賃支払いは、SUICA以外にもキャッシュレス決済を検討し、買い物キャッシュレス化と相乗効果を目指す。対象エリアは、今井インターチェンジエリアを中心とする就業エリアと主要駅をつなぐ経路など。	2・3	交通
102	電気自動車チャージライン	10年後を見据えた自動車シーンでは、電気自動車が主流となる。そこで、市内数か所、まずは東西に100メートル程のチャージポイントを作り、普及の後押しをする。片側2車線程度の広めの道路で、登録した車を15台ほど急速充電できるようにし、将来的には無接触給電できる設備を作る。	2・3	交通
103	市内循環バスの運行	高齢者が車を利用せずに買い物等ができるよう、バス(タクシー)を循環させる。	3	交通
104	河辺～小作駅間限定コミュニティバス運行事業	路線バスの運行外地域である河辺駅～小作駅間に限定し、コミュニティバスの運行を行う。運行は1時間に2～3本とし、2本運行の場合は毎時00分と30分、3本運行の場合は00分、20分、40分の運行とする。	3	交通
105	乗合タクシー運行事業	現在、各タクシー会社で増加しているワンボックスタイプのタクシーを空いた時間に活用し、過疎化地域を重点的に巡回することにより、特に高齢者の消費活動を活性化する。	3	交通

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
106	商業地域の全天候化	都営および民営バス路線が通っていない部分にコミュニティバスを設ける。また、福祉有償運送(高齢者や障がい者向け)の台数を増やすことでアクセスを向上させて買い物をしやすくする。商店街にアーケードを設けて、雨であっても買い物に来られるようにする。	3	交通
107	縦ラインのアクセス強化	青梅市の中央部を東西に青梅線が走っている。一方、南北の交通手段は自動車に限られる。青梅市の南北に飯能市や日の出町、あきる野市があるが、これらの地域のハブとなれるように従来の公共交通機関でつなげていない部分をつなげていく。	3	交通
108	タクシー券助成事業	電車やバスなどの公共交通機関が不便なことが、青梅に住みたくない理由として挙げられているので、年間1~2万円程度のタクシー券を配布する。ただし、最寄駅が青梅から御岳までの世帯は対象となるが、最寄駅が小作~青梅までの世帯に対しては、駅から自宅までの距離が2km以上などの条件を設けるなど検討が必要。	3	交通
109	コミュニティバス事業	コミュニティバスまたはタクシー 郵便の配達の手やボランティアなどで必要な時にバス賃程度で高齢者や乳幼児を持つ母親の外出を支援する。	3	交通
110	畑でコミュニケーション	市内の遊休農地を利用し、伝統野菜からカラフルな野菜まで幅広い品種を農業者と一般参加者が一緒になって有機肥料を利用して栽培する。 収穫した野菜は参加者と食べ、希望者には販売する。	3	コミュニティ
111	毎日(夜)の安全安心パトロールで市の魅力『安全・安心』を内外にPR ~安全・安心のまち“青梅”~	パトロールを民間委託し、小学生の下校時間や夜遅く通勤帰りの住民の見守りを実施する(例、正午から午後11時まで4台の青パトで市内を巡回)。振込詐欺や行方不明者の地域パトロールも実施する。	3	コミュニティ
112	だれでも広場	「だれでも広場」として、赤ちゃんから高齢者までみんなの居場所を作る。おもちゃなどは寄付で賄う。	2・3	コミュニティ
113	みんなの学び舎	幼稚園・小学校・中学校・老人施設など別々にせず完全複合化施設を作り、世代の隔たりなくお互いに交流し学びあう場をつくる。また、ランチをともに食べることで同じ釜の飯を食べる家族的なまちづくりをする。	3	コミュニティ
114	歩道のいどり事業	街路樹が植えてある根元に雑草が多く生えている部分の除草および苗の植付の支援を図る。(ボランティア袋、ポット苗の配布)	3	コミュニティ
115	道路のクリーン化事業	道路上・歩道等街路樹の落葉が目立つ所が多々あるので、自治会および地域のボランティアを集い、地域参加型の支援を実施していく。(ボランティア袋の配布)	3	コミュニティ
116	青梅市スポークスマンの外部雇用	民間や諸外国政府に見られるような専門的なスポークスマン(報道官)を雇用し、理事レベルの権限のもと、青梅の魅力、行っている事業を戦略的に外部にアピールする。	3	シティセールス

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
117	Society in Ome City 4.5→5.0 の推進	多くの市民が利用していると考えられるスマートフォンをきっかけとした情報化社会への適応および超スマート社会への移行に向けた取組を行う。 市民向けとして、情報化社会に抵抗のある市民(主に高齢者や事業者)を対象としたスマートフォンの使い方等の講習・研修の取り組み強化等を実施。 行政対応として、市内全域へのwifi環境整備や、庁内業務においてAIやRPAの積極的な導入を図るなどの取組を行う。	3	シティセールス
118	「おうめ版SDGs推進都市宣言」によるまちづくり	青梅版SDGsとして、推進のための取り組み過程を積極的に発信することで、シティセールスにつなげていく。また、各取組を行うに当たり、可能な限り民間資金の導入(広告費、先進事例への民間業者の協力、クラウドファンディングなど)を検討し、財政負担の軽減および民間との連携による更なる話題性を創出する。複数の取り組みを個別で考えるのではなく、青梅版SDGsによるまちづくり施策として宣言をし取り組むことで「おうめ版SDGs推進都市宣言」を内閣府が行う「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」として取り上げてもらうことを目指す。	3	シティセールス
119	ゆめうめちゃんのリアル化	着ぐるみだけでなく、一般市民から公募した実際の人物に衣装を着てもらいイベント等に出してもらう。(他自治体では職員による実績あり)	3	シティセールス
120	公民連携の推進	民間事業者等との新たな協力体制を構築し、課題解決に向けた可能性を柔軟に検討するため、公民連携に関する基本方針を定める。	3	自治体経営等
121	青梅市版SIM2030の作成と、これを活用した、対話による財政運営スキルの向上	青梅市版SIM2030を作成・活用し、様々な事業の財源を考える中で、職員同士、または市民や事業者も巻き込んで市の財政を考える機会を提供し、ひいてはまちづくりを考えることへつなげる。	3	自治体経営等
122	革命的企画事業の基盤こそ模倣の中にある #青梅 拡散プロダクション	東京都内の自治体だけでなく、全国の自治体や民間事業等を含め、世間一般のTV報道等で”話題になった”他自治体の話題や取組等、職員から随時吸い上げし、青梅市でも同様のことが行えるかどうかなど全てを検討する場を設け、費用対効果等も大まかな把握を行い実施する。(実証実験的な事業を続つぎと立ち上げチャレンジする)。市民を積極的に巻き込み、市民間の交流促進と、ワールドワイドな交流が生まれる可能性を膨らませる。 実際に動かした事業については、企画段階や協議等の段階から、その考えなど、また実際に実施した様子や、はたまた実施しようとしたけどやっぱり駄目だったよ、というような情報も含めて、SNSや広報、自治会掲示板等、あらゆる媒体を活用し拡散させる。	3	自治体経営等
123	多言語通訳サービス事業	市役所で通訳を登録しておき、家庭訪問の際などに同行してもらえたり市民にも安価または非課税の人には無償で月に何回か利用できる政策 また各課に通訳のアプリを導入して外国人に対応できるようにする。	2	自治体経営等

※本資料に掲載の事業名・事業概要は、発案の段階であり、今後内容を精査していく予定です。

No.	事業名	事業概要	基本目標	分類
124	行政版社外取締役制度の導入	会社の経営経験者や企業の役員OBなどの民間人材を市の経営会議の構成員に登用することで、中長期的な市政運営において従来の行政手法にとられない効率的かつ適切な経営判断ができる組織体制を整える。 また、経営組織に関する高度な知識や豊富な経験を有する高齢者人材を積極的に活用することで、基本目標の達成に資する戦略的な仕組みを具現化する。	3	自治体経営等
125	敬老会の縮小	費用対効果が皆無でコストパフォーマンスの低い敬老会を縮小する。 縮小しないにせよ適正な価格を徴収する。	3	自治体経営等
126	青空フリーマーケット事業	月1回もしくは2ヶ月に1回庁舎や市民センター等を利用し、フリーマーケットを開催する。出店する場合には、1区画1坪程度とし、参加料は全売り上げの5～10%または1区画当たり500～1,000円程度とする。	2	自治体経営等
127	市民へのモバイル端末の貸出し	市内の全世帯にモバイル端末(タブレット等)を貸し出し、広報の配信や納税通知を含めた各種通知など市からの情報発信を行う。 防災行政無線についても、緊急を要するもの以外の放送はやめる。 端末は、自治会回覧にも活用してもらおう。 また、行政相談やいじめ相談等プライバシーにかかる相談も個人の端末からであれば、LINE等のアプリと同じようにチャット形式で相談することも可能であったり、市民が気軽に利用・発信できるSNSや動画アプリ等で市民同士、市民でない第三者への発信も可能であったり等々、様々な取組へ発展させる。	3	自治体経営等